

### 第3回 小金井市産業振興プラン策定委員会 議事録

日時 令和7年9月26日（金）午後2時30分～午後4時30分

場所 東小金井駅開設記念会館・マロンホール2階A・B会議室

---

出席委員 8名

委員長	中庭光彦	委員
委員	佐藤剛	委員
	中根里美	委員
	橋本佳菜美	委員
	山口清	委員
	今井哲一郎	委員
	益田智史	委員
	渡邊雅毅	委員

欠席委員 3名

副委員長	西川亮	委員
委員	鴨下敏明	委員
	渡邊恭秀	委員

---

事務局	経済課長	島田泰吉
	経済課産業振興係長	田中達也
	経済課産業振興係主事	市原一典
	株式会社国際開発コンサルタンツ	氏原茂将

---

傍聴者 0人

## 議事

### 1. 開会（午後2時30分）

### 2. 議題

#### （1）小金井市に関する統計整理について

事務局が資料1を用いて、商業・工業基礎調査及びアンケート調査の統計分析の説明を行った。

- |       |   |
|-------|---|
| 中庭委員長 | 統計資料について説明があったが、何か質問等はあるか。  |
| 益田委員  | アンケートの選択肢にある「知的な場所」とはどういった場所を想定していたか。   |
| 事務局   | 書店とカフェが一体となったところのように、美術館や博物館というよりも身近なところで文化に触れることのできる場所をイメージしていた。                           |
| 益田委員  | なるほど。そういった場所があれば市民が気軽に知的活動に参加できるだろう。  |
| 佐藤委員  | 工業調査の対象は、いわゆる製造業に限定しているのか。  |
| 事務局   | 報告書で把握できるかぎりでは限定していると認識している。ただし、ヒアリング調査は農工大・多摩小金井ベンチャーポートの入居者も対象としており、次回委員会までに資料を確認し、報告したい。 |
| 佐藤委員  | アニメーションなどのコンテンツ産業は小金井市内にも存在しているはずで、今後の産業振興を考えるなら調査対象に含めるべきではないか。またコンテンツ産業は入っているのか。          |
| 事務局   | 報告書で把握するかぎりだが、恐らく把握していない。今後調査するべきと思われる。   |
| 佐藤委員  | そのような産業に目を向けてもらいたいと考えている。   |
| 中庭委員長 | 製造業の本社で事務が中心になるとその他製造業になるのかもしれない。いずれにせよ、その他製造業の詳細把握は必要と考える。                                 |

#### （2）新プランに係る具体的な取組の検討について

事務局が資料2を用いて、前回委員会での意見交換を踏まえた事業案の説明を行った。

- |       |   |
|-------|---|
| 中庭委員長 | 今日は資料2を膨らませていきたい。市民公募の意見からまず話を聞きたい。   |
| 山口委員  | アクティブシニアの活躍機会を提案させてもらったが、資料に書かれているとおりである。リタイア後に地域とかかわりがないと気づいたのだが、そういった方は多いと思う。地域で何らかの活動をしたいと思っても糸口がないことが課題と考える。市民大学のようなものを新たに立ち上げてよいが、既存の仕組みを活用するのもよいと思う。<br>アクティブシニアの活躍機会だけでなく、高校生が社会や地域に関わるきっかけづくりも重要である。高校生のうちに地域とかかわることで、大学進学や就職で一度市外に出ても、将来また戻ってくる可能性が高まるのではないかと。<br>大学との連携は西川副委員長の取り組みを含めて取組があると思うが、高校生は少ないと思う。社会とのかかわりの在り方が様々あるということが分かると、大学進学や就職を機に市外に転出したとしても戻ってくる可能性も高まると思う。 |

	事例で挙げられている加古川市の取り組みは NTT がプロボノという立場で支援している。高校生には着目してもらいたい。
中庭委員長	プロボノは報酬が発生するべきと思うが、アクティブシニアと言ってしまうと有償か無償かがはっきりない。アクティブシニアの活躍には対価が必要なのか。
山口委員	それを生業としてやっていくほどの収益性はないと思う。逆に意見をお聞きしたい。
中庭委員長	自分はそろそろ退職の年齢になる。その後何らかの活動をすれば、多少の対価はもらいたいと思う。
益田委員	自分の商店街では、東京都福祉保健局のホームタウンプロジェクトを活用し、地域福祉分野のプロボノ人材に関わってもらった。その際は商店会としては報酬を支払うことはなかった。ただ、プロボノの方たちに聞くと地域貢献が会社で評価されることもあるようであり、間接的に報酬やキャリアに結びつくこともあるようである。
山口委員	シルバー人材センターは福祉的な要素が強いと思うので、対価を求めるというよりも、社会との接点づくりなのだと思う。
益田委員	シルバー人材センターは 65 歳以上という条件があると思うが、50 代のころから機会づくりができるとよい。
中庭委員長	現役世代のプロボノだとすると、地域活動が自分のビジネス活動に反映されるというインセンティブがあるとよいかもしれない。
山口委員	生きがい作りよりも、対価が付帯する労働という側面がないといけないのかなと思う。
橋本委員	求める対価は高くないと思うので、ボランティアのようなものもあれば、対価が得られるものもあるよいのではないか。
中庭委員長	小金井市の市境に住んでいるが、東小金井駅の高架下におもしろい店ができているものの、駅から遠いので自転車でのアクセスがしやすくなるとよいと思う。若い世代は自動車も持たなくなっているので、市内で自転車での移動性が高まるとよいと思う。
橋本委員	地域や市内事業者とのかかわりが増えていくと地域への思い入れが増えていくと思うし、それ自体がおもしろいと思う。
中庭委員長	母が専業主婦をしているが、地域とつながりたいという思いがある。ただキャリアのある人なので、単純なバイトでは満足度が低いようである。知的な働き方をしたいと思う人が機会とつながれると良いと思う。そういった人は市内に多いと思うので、そのための機会づくりができるとよいと思う。
橋本委員	自転車での移動がしやすくなるというと空き店舗活用の事業が提起されているが、これぐらいの取組で十分なのか。
中庭委員長	駅近くはよいのだが、駅間や駅から遠いところは駐輪場が十分ではない。自転車で移動してきたのに駐輪場から目的地まで歩くことになってしまうのは不便である。小さくてもよいので駅から遠いところにも駐輪場があるとよい。
橋本委員	自動車利用は多いのか。

橋本委員	自分では運転しないが、家族が運転してくれる。夏の猛暑のなかでは自動車移動が前提となる。
中庭委員長	勤務経験のある方でやりがいのある仕事をパートタイムでやりたいという人は多いが、どうすべきか。
橋本委員	働ける場所に関する情報を発信することから取り組むべきではないか。
中根委員	来街の目的地が増えるとよいと考える。東小金井駅を利用しているが、nonowa口には商店が増えてきている。駅の北口・南口は JR の駅にしては土地利用が活発でないように感じる。JR の取組を期待すべきかもしれないが、空き店舗の入居が促進されるとよいと思う。また、空き店舗に入居するテナントも駅の魅力向上につながるようなテナントがよいと思う。駅を降りたときに楽しめるテナントが増えるとよいと思う。
中庭委員長	どのようなテナントが増えるとよいと思うのか。
中根委員	東急東横線の学芸大学駅の高架下にもおしゃれなカフェや書店が出店していて、歩いて楽しい雰囲気になっている。入ってみたいと思うような小金井でしかない地元ならではの商店が増えるとよいと思う。
佐藤委員	実現可能性はさておき自由に発言すると、消費的な創造的な都市がよいと思う。ソフトウェアやコンテンツなどでもよいと思う。アニメーション産業はジブリ以外にもマンションの一室に立地していたりすると聞いている。 コンテンツを生み出すような事業者があってほしい。欲を言えば市外から誘致するのではなくて、市内でスタートアップされるとよいと思う。 三鷹市はそのようなレンタルオフィスを整備しているようだが、小金井市では空き店舗や空き家を活用してマッチングするとよいと思う。そのためのリサーチをしていけるとよいと思う。
中庭委員長	方法論についてアイデアはあるか。
佐藤委員	金銭的な支援はよくないと思う。家賃の支援や情報提供などが望ましいと思う。オフィスになりえる不動産を紹介するといった支援もあると思う。
渡邊（雅）委員	現在の計画にもブランド品をつくと書いてあるが、具体的な品目が挙げられているのか。
事務局	既存のコンテンツの売り方を考えていた。
渡邊（雅）委員	はちみつに限らず、農産品はあるので打ち出すコンテンツはあると思う。 やる気のない農業者をどうすべきなのか。兼業農家は兼業の稼ぎを営農に投資できない構造的な課題がある。 生産物を露店で安く売る農業者がいると、高く売りたい農業者は市民ではなく、企業に向けて納品するようになる。地場産のものが市内に流通していかない。JA は支援してくれているのだが、問題解消に至っていないと感じる。
事務局	生産物のブランド化という認識は間違いないか。農業には様々な分野があり、農業者の意欲も様々である。そのなかで生産物をブランド化しようとする、当該生産者の負担にならないか。
渡邊（雅）委員	生産量は多くないが、たとえば質に着目したイベントなどは考えられる。
山口委員	スイーツ店と協働する可能性はないか。

渡邊（雅）委員 やはり生産量が多くはないのが課題である。

中庭委員長 どれぐらいの量が生産できるのか。

渡邊（雅）委員 養蜂箱 1 つで 25 kg ぐらい生産でき、年間 200 kg ぐらいは生産できる。生産量は増やしたいが住宅地なので増やしにくい。

益田委員 率直な感想としては、これだけの事業ができるのかが不安である。具体的なプランにしたいと思っており、大きな事業をひとつ立ち上げるのがよいのではないか。源流になるような取組があれば、様々な展開があり、アクティブシニアの活躍の場づくりにつながると思う。その源流が何かというと、やる気のある事業者・農業者が稼げるようになることだと思う。

そのやる気をどのように評価するかが課題になると思う。そのひとつの観点が継続性だと思う。また、商店街活動などの地域に出かけて行って活動していることもあると思う。地域活動に参加しながら地域と関係をつくり、信頼を得られたからこそ店を使ってもらえたという実感がある。

商店街が地域を担うことに対する支援が大事だと思う。価値を共有して地域をよくしていこうとすることを考えたい。

第一には「やる気のある事業者・農業者が稼げるようになること」を取り組んでいけば、実りが豊かになって、種や芽のような事業への展開につながると思う。

中庭委員長 個店ががんばれば商店街が盛り上がり、結果として個店にフィードバックされるというプロセスがつくられると思う。ただ、そのプロセスは行政が介入しない方がうまくいくというところもあると思う。そのなかでもやはり行政の支援は必要なのか。

益田委員 補助金は必要だと思う。事務軽減もあるが、実績や成果を評価してもらいたい。商店街の伸び代は地域交流しかないと思う。しかし、活動するための補助金を得ようとして事務作業が増えてしまい、地域交流や自店の商売に注力できなくなるという本末転倒が起きている。

中庭委員長 評価基準が問題だと思う。やる気がある人をどのようにつくとよいと思うか。

益田委員 事業展開を真剣に考えている人ではないか。

中庭委員長 真剣に考えていることを行政に伝えていくことが必要なのではないか。その情報の流れが生まれないといけないのだろう。

益田委員 どういった支援が必要なのか考えるべきだと思う。自分が思いつくのは事務作業の補助だと思う。

渡邊（雅）委員 やる気のある人に作業が集中することが問題で、人的補助が得られるとよいのだろう。

益田委員 市内にもがんばっている商店街とそうでない商店街がある。がんばっている商店街には集中的に支援してもらいたい。

中庭委員長 行政はどうしても平等性にとらわれてしまう。ただ、商業振興はがんばっているところを応援することだと思うので、そのためには評価基準を明確にするということが大事なのだろう。

今井委員 大きなことをした方がよい。市内の商店街を活性化するというのを掲げて、事業を紐づければよいと思う。商店街振興がないと産業振興プランは必要ないと思

う。チェーン店が出店するのではなく、個店が増えるように商店街が盛り上がっていくとよいと思う。

例えば、若手の出店を支援するような施策があると思う。東京都だと男性は年齢制限があるため、市独自の支援があると思う。駐輪場も、商店街近くの土地を利用して整備して、その駐輪場の運営を市が商店街に委託するといったこともあり得る。

東小金井駅近くの創業支援施設を利用している事業者が市内定着しないという課題があるが、もうひとつ創業支援施設を整備して競争させるようにして、市内定着を促していくことが必要なのではないか。

中庭委員長 商店街を盛り上げるような具体的なプランを持った方がよいことは事実である。それでは具体的に何をするのかを問うと答えがない。商店街振興は失敗が続いているので、成功のための手段が分からない状況なのだと思う。

そのための手段を考える上で評価基準をつくることは大事だと思う。補助金を出すにしても、成果を上げているところに注力するということはあると思う。小金井市のサービス産業が相乗効果を高めていけるのか、アイデアを講じていきたいと思う。

もうひとつ聞きたいことはスマホとどのように付き合うのかということである。ポイント制度などを商店街で共通して立ち上げていくといったことをしないと、商店街と住民の結びつきが弱まってしまわないか。

今井委員 高齢者が経営しているようなところではスマホ決済は進んでいないし、難しいと思う。

益田委員 取組の濃淡はあると思う。積極的にやっているところは積極的である。

橋本委員 商店街の商店はスマホで調べても情報が分からない。メニューや価格について分からないと、ハードルが高くなってしまふ。ホームページをつくらなくても SNS でよいと思う。何らか情報発信をしてくれると来店しやすくなる。

中根委員 分からないお店には入れない。Instagramは利用者の幅も広がっているので、メニューの写真をアップしてもらえると入りやすさは増すと思う。

橋本委員 消費者としては失敗したくないという気持ちがあるので、それを避けるためには口コミが重要になる。そういった意味では食べログに載っていることが生命線だと思う。

中庭委員長 SNS の利用など、スマホ時代における商業展開は考えてもらいたい。

### 3. その他

事務局より次回・次々回の委員会の開催予定を伝えた。

#### ■次回

- ・日時：10月27日（月）午後6時00分～午後8時00分
- ・場所：小金井市役所第二庁舎 801 会議室

#### ■次々回

- ・日時：12月22日（月）午後2時30分～午後4時30分
- ・場所：小金井市市民会館萌え木ホール A 会議室

#### 4. 閉会（午後 16 時 40 分）